

# 平成二十八年 一般入試問題

## 国語

(解答時間 五〇分)

(配点 一〇〇点)

### 〔注意事項〕

1. 問題用紙は開始の合図があるまで開かないこと。
2. 解答用紙に受験番号(算用数字)と氏名を記入すること。
3. 問題番号は□→□です。最初に確認すること。
4. 解答はすべて、解答用紙の解答欄に記入すること。
5. 試験終了の合図とともに解答をやめて筆記用具を置き、監督者の指示に従うこと。
6. 問題用紙は各自持ち帰ること。

東京農業大学第一高等学校

一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「自分って何だろう」

「自分は何のために生まれてきたのだろう」

「自分はどこから来て、どこに向かっているのだろう」

このような問いを<sup>(ア)</sup>アイデンティティをめぐる問いという。哲学青年のように人生の探究にはまっている人は別になると、このようにいかにも哲学ふうな問いと格闘することはないかもしれない。

児童がこんな問いを発してきたら、感心するというよりも、ちょっと驚いてしまう。もちろん、身長や体重に大きな個人差があるように、心の発達にも個人差があるため、<sup>①</sup>ソウジユクな子どもがこのような問いを発することも十分あり得ることだ。

A、思春期になると、だれもが多少なりとも哲学ふうな問いと<sup>②</sup>ムエンではなくなる。改めてこんな問い方をしないまでも、つかみどころのない自分をもてあます。もっと未熟な言葉で考えるにしても、どこかでこのような問いが気になってくる。

「自分らしく生きたい。でも、どういう生き方が自分らしいんだろう」「自分らしさって何だろう」といった問いが浮かんでくることは、だれでもよくあるのではないか。自分はこれまでどのような人生を歩んできたのだろう。自分はこの先どのような人生を歩んでいくのだろう。自分はいつたい何をしたいんだろう。自分はこの社会で何をすることを求められているのだろう。自分は何をすべきなんだろう。「自分は……」「自分は……」「自分は……」と、この種の問いが押し寄せてくる。このような問いは、より実践的なアイデンティティをめぐる問いといえることができる。

そもそもアイデンティティとは何なのか。これは、精神分析学者として心の発達を探究したエリクソンが、心理学用語として導入したもので、「同一性」と訳される。一般に、アイデンティティというときは、自己のアイデンティティを意味する。

アイデンティティとは、自分が自分であることの証明であり、「これが自分だ」「これが自分らしい生き方だ」と言えるようなものがつかめてきたとき、アイデンティティが確立されたことになる。僕たちが世間で使っているIDカードというのは社会的な立場が明示されている身分証明書のことだが、自分の生き方の<sup>③</sup>トクチョウを証明するのがアイデンティティだと言える。

アイデンティティをめぐる問いの中核にあるのが、自分を社会にどのようなようにしてつなげていくかというテーマである。それは、具体的には職業をめぐる葛藤として経験されることが多い。

エリクソンは、何かに献身したいという欲求が、アイデンティティ危機のひとつの側面だという。その具体的な様相について、エリクソンは、つぎのように描写している。

「彼らの目前の、実体的な大人の仕事をみて、自分自身が感じている自分と比較した結果、他人の目に自分がどのような人間に映っているかということが今や第一の関心事となり、また幼い頃に習得した役割や技術を現在の職業的規範とどう結びつけるかということが最も切実な問題となる。……(中略)……この段階における危険は社会的役割の混乱である。……(中略)……大抵の場合、個々の若い人たちの心を悩ましているのは、職業に関する同一性を最終的に固めることができないということである。」(E・H・エリクソン、一九五〇年／仁科弥生訳『幼児期と社会 1』みすず書房、一九七七年)

アイデンティティをめぐる問いというのは、生き方の軸となる価値観の探求であり、より現実的にはIをめぐる葛藤といえる。どう生きるのが自分にふさわしいのか。それは、何をして暮らすのかということでもあり、職業というもの無視して答を出すのは難しい。エリクソンも指摘しているように、青年期のアイデンティティをめぐる葛藤の中核には、いわば職業的アイデンティティを固めることができないということがあるのだ。

(イ) エリクソンは、アイデンティティの確立が青年期の最も重要な課題だという。世の中が静的な時代だったらそうかもしれない。世の中の変化が少なく、大人とはこんな生き方をするものだという大人像が明確で揺るがない時代なら、大人の世界に仲間入りする時点で、アイデンティティは確立されるのかもしれない。

でも、今はそんな時代じゃない。止まるところを知らないIT革命の波により、世の中の仕事の形態も僕たちのライフスタイルも目まぐるしく変化していく。だれもがこの社会で生きていく限り、そうした変化に適応していかなければならない。自分を社会につなげていくというのは、**B** 難しい課題になってきている。

そうなる、「これが自分らしい生き方だ」というアイデンティティの思想的な核の部分は変わらないにしても、「何をして生きるか」「どのように暮らすか」という具体的な部分は絶えず見直しを迫られることになる。

そんな時代ゆえに、僕は、アイデンティティは人生の節目節目に問い直され、その時々々の社会的状況や自分の置かれた状況にふさわしい形につくり直されると考えている。

ただし、**C** 暫定的なものではあっても、社会に出て行くに当たって初めて自己のアイデンティティをめぐる問いに対して回答を与えようという意味で、アイデンティティの確立は、思春期から青年期にかけて格闘すべき重要な課題と言えるだろう。

「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」

そんなふうと思うことはないだろうか。アイデンティティをめぐる問いというのは、言い換えれば、「ほんとうの自分の生き方を求めてあれこれ考えるということだ。それなら、思春期になるとだれもが「ほんとうの自分」を探していることになる。

でも、よく使われる「自分探し」という言葉。何だか **(X)** いかかわしい。世の中に溢れる自分探しのための本やセミナー。その手の本を中毒症状のように読みあさる人たちがいる。その手のセミナーに手当たり次第に参加する人たちがいる。

いくら本を読んだり、セミナーに参加しても見つからないため、さらに読みあさり、手当たり次第に参加する。それは結局、そんなことをしても「ほんとうの自分」なんか見つからないと言っているようなものではないか。そもそも、「ほんとうの自分」という言い方自体に、何かいかがわしさを感じてしまう。今の自分は「うその自分」だと言っているわけだから。それって都合のいい言い訳なのではないか。

「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」といった思いは、思春期に限らず、だれもが抱えているものなのではないか。今の自分の生活に満足できない、納得がいかない。充実感がほしい。何か打ち込めるものがほしい。「生きてる」っていう実感してほしい。現実を振り返れば、何でも適当、周囲に流される、そんな意志の弱い自分がある。何をやっても続かない。なかなか思うようにならない現実に行き詰まっている。何の能力も **(4)** ハッキリできない。そんなカッコ悪い自分がある。そんな自分はほんとうの自分じゃない。そう思えば気持ちがラクになる。「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」と思うことは救いになる。 **(ウ)** 問題はその後だ。

もともと自分らしい生き方に向かって歩み出すのか、それとも「ほんとうの自分は、こんなもんじゃない」という思いを言い訳にして適当に流され続けるのか。

僕たちは、どうしても **II** に流されやすい。流れに逆らって生活を変えようというのは、とても大きなエネルギーを必要とすることなのだ。生活を変えるには大きな覚悟がいる。

それに、思い切って生活を変えるにしても、どう変えたら生活に張りが出てくるのか、どうしたら納得感が得られるのか、それがわからない。試しに何かに打ち込んでみたとして、いきなり充実感が得られるわけではない。充実感なんて、そう簡単に手に入るものじゃない。

何をするにしても、充実といえる状態にたどり着くまでには、地道な努力が必要となる。でも、何かに打ち込んだとして、充実感が得られるかどうかは、それを本気になってやってみないとわからない。本気でやってみてから自分に合わない

かったとわかることもある。そうすると、なかなか覚悟ができない。

そんなとき、「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」「どこかにほんとうの自分があるはず」「いつかきっとほんとうの自分にめぐりあえるに違いない」と思うことで、今の生活を変える努力を何もしなくても、現実逃避的な安らぎが得られる。

「ほんとうの自分は、こんなもんじゃない」という思いを言い訳にして、「とりあえず今は、このままでいいか」と開き直ることができる。今の納得のいかない生活。それに甘んじている自分。どうにもパツとしないけど、これは「ほんとうの自分」じゃないんだ。そう思うことで気持ちが軽くなり、東<sup>つか</sup>の間の安らぎが得られる。

このように、「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」と思うことが、現実への不満に対するごまかしになっていることが多い。「どこかにほんとうの自分があるはず」「いつかほんとうの自分にめぐりあえるはず」という自分探しの物語は、自分らしいと納得できる生活に向かって一步を踏み出す覚悟ができない怠惰な心にとって、便利な救済装置となっているのだ。

ごまかしだけではない。本気になって自分探しに取り組むこともある。就活に真剣に取り組む若者にも、自分探しの迷宮にはまっている人が多い。自己分析を徹底してやれば、ほんとうの自分が見えてくると思っている。なかには「もつとしっかり自己分析してから就職しないといけないと思うんです。中途半端に就職したら、きっと後悔すると思うから。だから就活は一年延ばそうと思います」などというケースもある。

自分が何を求めているのか。自分はどんな仕事をしたいのか、どんな仕事に向いているのか。自分にはどんな生き方がふさわしいのか。じっくり自己分析をすれば、それがわかるとでもいうのだろうか。D そんなことはないはずだ。

僕は、自己分析テストや職業適性テストを作ってきた側の人間だからよくわかるのだが、その類のテストをいくら受けても自己分析が深まることはない。それは、ダイエットしようとして何度も体重計に乗るようなものだ。大事なのは、測定することではなく行動することだ。行動することで測定値は変わってくる。A

そもそも自己分析の素材は、これまでの自分自身の行動のサンプルだ。適性検査を思い出してみよう。「あなたは……ですか」といった質問が並んでおり、その都度「自分はどうかだったかな」とこれまでの自分を振り返りながら答えていく。自分自身の行動のサンプルと照らし合わせながら答えた結果が自己分析の素材になっているのだ。E

それなら、より有効な自己分析をするために、行動のサンプルをできるだけ増やす必要がある。やってみることで発見する自己という視点をもってみよう。U

このように、行動することで、思いがけない気づきを得られることがある。それまで気づかなかった自分の一面を発見することがある。何でもそうだが、やってみて初めてわかることがある。逆に言えば、いろいろやってみないことには、自分というのわからないことだらけなのだ。E

「どこかにほんとうの自分があるはず」というのは間違いだ。自分というのには、「今、ここ」にいる自分しかない。自分探しの物語に Y 安住している限り、今の自分は変わらないのだから、永遠に納得のいく生活なんて手に入らない。今ここで新たな一步を踏み出さないかぎり、自分の生活に変化の風を巻き起こすことはできない。O

「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」と思うのは、今の生活から D ッキヤクしたいという気持ちの表れといえる。それなら抜け出すしかない。惰性に流されながら、「いつかほんとうの自分にめぐりあえるはず」などと思っていたって、そんな日はけっしてやってこない。妖しげな魅力を放っている自分探しの物語から抜け出して、今ここにいる自分を何とかしないといけないのだ。では、どうしたらよいか。それをこれから考えてみよう。

（榎本 博明 『自分らしさ』って何だろう?』による）

問一 傍線部①～⑤について、カタカナを漢字で答えなさい。

問二 空欄A～Dに入る語として最も適当なものを、次の1～6の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。(但し、同じ番号は複数選択しないこと。)

- 1 ますます    2 そこで    3 でも    4 たとえ    5 けっして    6 ところで

問三 二重傍線部(X)「いかがわしい」、(Y)「安住」の本文中での意味として最も適当なものを、次の1～5の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- (X) 「いかがわしい」
- 1 ばかばかしくて相手にできないこと
  - 2 複雑で面倒であること
  - 3 本当かどうか信用できないこと
  - 4 恐ろしく気味が悪いこと
  - 5 気高く荘厳な様子であること

- (Y) 「安住」
- 1 物事を理解すること
  - 2 現状に満足すること
  - 3 体を休めること
  - 4 危険を察知すること
  - 5 一つの所に落ち着くこと

問四 傍線部(A)「アイデンティティ」とあるが、筆者はどのようなときにアイデンティティが確立されると言っているか。

最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 だれにも頼らずにひとりの人間として自立し、親のもとから離れて生活することができたとき。
- 2 生きていくためにお金を稼ぐ職業を見つけ、自分の生活を維持することができたとき。
- 3 自分らしい生き方と言えるものがつかめ、これが自分だと確認することができたとき。
- 4 自分とは何かという哲学的な問いが自分の中に生まれ、自分探しをはじめることができたとき。
- 5 社会の変化に対応できる能力が身につき、社会の様々な問題に対応することができたとき。

問五 空欄I・IIに入る最も適当な語句を、次の1～5からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- |    |        |       |        |         |            |
|----|--------|-------|--------|---------|------------|
| I  | 「1 青年期 | 2 思春期 | 3 職業選択 | 4 社会の変化 | 5 アイデンティティ |
| II | 「1 情性  | 2 時代  | 3 情報   | 4 人情    | 5 興味       |

問六 傍線部(イ)「エリクソンは、アイデンティティの確立が青年期の最も重要な課題だ」とあるが、筆者はどのように考えているか。最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 社会が静的であり、大人像が明確である時代では、どう生きるのが自分にふさわしいのかと問い続けることが重要であり、アイデンティティは人生の節目において常に問い直されるものであるということに自覚する必要がある。
- 2 仕事の形態やライフスタイルが目まぐるしく変化する現代では、確固とした大人像を持つている必要がある、そのためには、社会に出ていくにあたって、常に自分のアイデンティティを問い直すことを意識しなければ生きていけない。
- 3 昔のように静的な時代ではなく、仕事の形態やライフスタイルが多様化した現代では、アイデンティティを確立することが難しいが、社会に出ていくにあたって、自己のアイデンティティをめぐる問いに一度答えを出すことは大切である。
- 4 大人になれば自動的にアイデンティティの確立が行なわれるような時代では、各人が独自のアイデンティティを持つ必要がある、人生の節目においてどう生きるのが自分にとって一番ふさわしいのかを問い続けなければならぬ。
- 5 現代は、アイデンティティを確立させる必要性がなかった昔のように静的な時代ではなくなくなってしまったため、自分のアイデンティティを確立させるためには、確固とした大人像を変化する時代と共に問い続けるべきである。

問七 傍線部(ウ)「問題はその後だ」とあるが、筆者は自分探しについてどうすればいいと述べているか。最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 様々な本を読んだり、セミナーに参加したりすることでより広い視野が得られるため、もっと広い視野を持つべきである。
- 2 本を読むことやセミナーに参加することでは、ほんとうの自分を見つけることなどできないため、そのようなことは一切やめるべきである。
- 3 自己分析を徹底して行えばいつかはほんとうの自分に出会うことができるため、自己分析を真剣に行うべきである。
- 4 ただ本を読んだりセミナーに参加したりすることよりも、より有効な自己分析をするために何か行動を起こすべきである。
- 5 より有効な自己分析をするために、様々な自己分析テストや職業適性テストを受け、自分の行動のサンプルを増やすべきである。

問八 本文には次の文が抜けている。本文中の(ア)～(オ)より入るべき箇所を一つ選びなさい。

先にも指摘したように、やってみたら意外に面白いと思うことがある。苦手だと思っていたけど、やってみたら「案外自分は向いてるかもしれない」と思えてくることもある。興味をもっていたけど、やってみたら「ちょっと自分には無理」と思うこともある。

問九 本文の内容としてふさわしくないものを、次の1～6の中から二つ選びなさい。

- 1 アイデンティティをめぐる問いは「自分は何のために生まれてきたのだろう」といった哲学的な問いであり、思春期にはだれもが多少なりとも考える問題である。
- 2 「自分らしく生きたい」といった欲望を叶えるためには、アイデンティティの確立が不可欠であるが、それはとても難しく、思春期には達成できないことである。
- 3 本を読みあさり、セミナーに手当たり次第参加することは、結局、そんなことをしても「ほんとうの自分」は見つからないと言っていることと同じである。
- 4 「ほんとうの自分はこんなもんじゃない」と思うことで、今の生活を変える努力をしなくても、一時的には現実逃避的な安心を得ることができる。
- 5 自己分析テストや職業適性テストなどをたくさん受けたとしても、結局、「ほんとうの自分」を変えることはできないのだから、素直に現状を受け入れなければならない。
- 6 「ほんとうの自分」は「今、ここ」にいる自分でしかなく、「いつかほんとうの自分にめぐりあえるはず」という期待を持つことは間違いである。

## 二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

『資本論』のなかでマルクスは、商品を売ることはその商品に「とんぼ返り」命がけの「跳躍」を強いることだと茶化している。売り手も商品も、買い手という他人によってじつさいに買われなければ、それ自身が価値のない手としての商品であることを実証できないからである。だが、じぶんの商品を買って手が出ないかどうかが日々気にしている心配性の売り手が商品に強いるこの「跳躍」は、それよりはるかに根源的な「跳躍」を前提としている。なぜならば、貨幣が貨幣であることに何の疑念もいだかずに日々店先にたつ無邪気な商品の買い手のほうが、本人の意識とは裏腹に、手のなかににぎりしめている貨幣そのものにたいして、<sup>(ア)</sup>「たんなる」とんぼ返り」にはとどまらないまさに「命がけの跳躍」を強いているからである。

貨幣を貨幣として今ここでひきうけてもらうためには、貨幣を貨幣としてひきうけてくれる人間が無限の未来まで存在しつづけることが期待されていなければならない。無限の未来にむけての期待のみが、今ここで貨幣の貨幣としての価値を支えている。だが、そもそも未来において貨幣を貨幣としてひきうけてくれるはずの人間は、今この人間にとつてはまったくアカの他人であり、その多くはまだこの世に生をうけてさえいないのである。そして、もちろん、神ならぬ人間にとつて、他人の心のなかをうかがい知ることができない。まして、まだこの世に生まれてもきていない無限の数の他人の心のなかをすべてうかがい知ることなど不可能である。未来における人間が貨幣をそのまま貨幣としてひきうけてくれるかどうかは、たんに主観的に期待するよりほかはないのである。いや、それだけではない。無限の未来とは無限のあなたの未来である。命にかぎりのある人間にとつて、いやたとえ命にかぎりのない神であったとしても、無限のあなたの未来におけるすべての人間がじぶんたちが期待したとおりに貨幣を貨幣としてひきうけてくれたかどうかを、事後的に判定することは不可能である。これはたんに認識の問題ではなく、論理的な不可能性である。貨幣を手にもつ買い手

は、商品を手にもつ売り手とちがつて、みずからの主観を客観によって訂正する<sup>(A)</sup> ずべをもっていないのである。貨幣が無限の未来まで貨幣であるという期待とは、それゆえ、たんにそのときどきで主観的であるだけではない。それは、未来永劫にわたって客観性が確立されないという意味において、主観的であることを運命づけられているのである。すなわち、貨幣を貨幣として存立させる未来の無限性そのものが、貨幣の貨幣としての価値を支えていくひとびとの期待を必然的に主観的なものにしてしまうのである。

貨幣をさしだして商品を買うこと——それは、貨幣にまさに無限の未来にむけての「命がけの跳躍」を強いることなのである。

むしろ驚くべきなのは、「命がけ」であるべきこの「跳躍」が日々市場で間断なくおこなわれているということである。もちろん、貨幣は金であると唱えてきた金本位主義者やマルクス主義者がほほ死にたえてしまった今、貨幣をモノとして使用するための人間の欲望にも、貨幣をモノとして生産するための人間の労働にも、この「跳躍」の根拠を見いだすことはできない。そして、民間の金融機関のオンライン化された口座のなかに電磁氣的に記録されているさまざまな形態の預金残高が、中央銀行券や金属通貨をはるかに<sup>(B)</sup> 凌駕する規模で全世界的に貨幣として流通している今、特定の貨幣を支払手段として使うことを強制する共同体的な規制や中央集権的な強制にも、この「跳躍」の根拠を見いだすことはできない。どのような意味においても、貨幣の「跳躍」を正当化しうる客観的な根拠はない。だが、それにもかかわらず、<sup>(イ)</sup> ひとびとは躊躇することなしに貨幣を日常的に貨幣として使っている。いや、たとえそれが「命がけの跳躍」ともなうということを知識としてもっていても、ひとびとは日常的にはなんら躊躇することなしに貨幣を貨幣として使うことになるだろう。その結果として、貨幣はひとからひとへと先送りされ、じつさいに貨幣としての価値を今ここで維持することになる。

それでは、日々市場でなされている貨幣の「命がけの跳躍」は、それを正当化する客観的な根拠がないとしたら、いったい何を実践的な根拠としているのだろうか？

右の問いにたいする答えは、ただひとつ——貨幣が今まで貨幣として使われてきたという事実、である。すなわち、貨幣が今まで貨幣として使われてきたという事実そのものが、貨幣が無限の未来まで貨幣として使われつづけるというひとびとの期待のとりあえずの根拠となっているのである。

貨幣が今ここで貨幣であるとしたならば、それは結局、つぎのような因果の連鎖の結果にほかならないのである。貨幣が今まで貨幣として使われてきたという事実によって、貨幣が今から無限の未来まで貨幣として使われていくことが期待され、貨幣が今から無限の未来まで貨幣として使われていくというこの期待によって、貨幣がじつさいに今ここで貨幣として使われる。過去をとりあえずの根拠にして無限の未来へむけての期待がつけられ、その無限の未来へむけての期待によって現在なるものが現実として可能になるのである。貨幣ははじめから貨幣であるのではない。貨幣は貨幣になるのである。すなわち、無限の未来まで貨幣は貨幣であるというひとびとの期待を媒介として、今まで貨幣であった貨幣が日々あらたに貨幣となる。

ここでは、日常的な意味での時間の先後関係がまさに宙づりにされ、因果の連鎖が無限の円環をなしている。じつさい、この円環が大きく一巡すると、現在が現在として成立し、時間が一步先へと動いていくことになる。過去と未来との分水嶺としての現在が、それまでの現在を過去へと送りこみながら、未来にむかってつき進んでいく。貨幣が貨幣となることが、時間を時間として生みだしているといってもよいだろう。<sup>(ウ)</sup> 貨幣とは時間なのである。

(岩井克人『貨幣論』による)



問一 二重傍線部(A)「すべ」、(B)「凌駕」の語句は、本文中でどのような意味で使われているか。最も適当なものを、次の1〜5のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

(A) すべ					(B) 凌駕				
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
事実	基準	結果	手段	理由	他のものをしのいで、上に出ること。	不正を問いただし、強くせめること。	与えられた任務にそむくこと。	嫌ってしりぞけること。	同類のものの中で、すぐれていること。

問二 傍線部(ア)「たんなる」とんぼ返り』にはとどまらなまさに『命がけの跳躍』を強いている」とあるが、買い手のどのような行為を述べたものか。次の語句をそれぞれ用いて五十字以内で説明しなさい。(商品・期待・主観的)

問三 傍線部(イ)「ひとびとは躊躇することなしに貨幣を日常的に貨幣として使っている」とあるが、このことの実践的な根拠となるものを、本文中の語句を用いて二十五字以内で答えなさい。

問四 傍線部(ウ)「貨幣とは時間なのである」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の1〜5のうちから一つ選びなさい。

- 無限の未来まで貨幣は貨幣であると人々が期待するのと同様に、時間が未来へと進むことで、それまでの現在が過去になり新たに現在という時間が生みだされている。
- 無限の未来へ向けて貨幣があらたに貨幣となるという可能性と同様に、時間の後先が逆になることで、過去と未来に逆の時間軸が成立し、あらたな過去が生みだされている。
- 無限の未来まで貨幣は貨幣であると人々が期待するのと同様に、因果の連鎖が一巡したことで、未来から過去へと現実の時間が送りこまれ、現在という時間が生みだされている。
- 無限の未来へ向けて貨幣があらたに貨幣となるという可能性と同様に、時間が一步先に進むことで、因果の連鎖は過去から未来までの連続性を失い、現在という時を明らかにしている。
- 無限の未来まで貨幣は貨幣であると人々が期待するのと同様に、無限の円環が回転することで、現在が過去へ、未来も過去へと後先が逆転し、あらたな時間が生みだされている。

三 次の文章は、兼好法師が著した『徒然草』の一節である。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(ア) 五月五日、賀茂の競べ馬を見侍りしに、車の前に雑人立ち隔てて見えざりしかば、おのおの下りて、埒の際に寄りたれど、ことに人多く立ち込みて、分け入りぬべきやうもなし。

かかるをりに、向ひなる棟の木に、法師の登りて、木の股について物見るあり。取り付きながらいたうねぶりて、落ちぬべき時に目をさますこと、たびたびなり。

これを見る人、あざけりあさみて、「(イ) 世のしれものかな。かくあやふき枝の上にて、安き心ありてねぶるらんよ」と言ふに、我が心にふと思ひしままに、「我等が生死の到来、ただ今にもやあらん。それを忘れて物見て日を暮らす、愚かなることは猶まさりたるものを」と言ひたれば、前なる人ども、「まことにさにこそ候ひ [X]。もとも愚かに候」と言ひて、皆うしろを見かへりて、「ここへ入らせ給へ」とて、所をさりて、呼び入れはべりにき。

かほどのことわり、誰かは思ひ寄らざらんなれども、をりからの、思ひかけぬ心ちして、胸に当たりけるにや。人、木石にあらねば、時にとりて、ものに感ずることなきにあらず。

(『徒然草』第四十一段より)

(注)

「賀茂の競べ馬」……京都市左京区の上賀茂神社の馬場で行われた競馬

「我」……筆者、兼好を指す

「生死」……ここでは「死」のみを意味する

「木石」……「非情のもの」という意味を「木」や「石」に例えた言葉

問一 傍線部(ア)「五月」と同じ語句を、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 葉月      2 霜月      3 如月      4 皐月      5 睦月

問二 傍線部(イ)「世のしれものかな」とあるが、この発言の理由として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 人が多くて観戦が難しいのに、今にも折れそうな木に上ってまで、競べ馬を見ていたから。
- 2 多くの人が競べ馬見たさに賀茂神社に集まり、境内の木の枝まで人でいっぱいだったから。
- 3 木の上で居眠りをして、落ちそうになつては目を覚ますことを何度も繰り返していたから。
- 4 一人で木の上へ登って、誰にも邪魔されずに安心して競べ馬を見物することができたから。
- 5 競べ馬に夢中になり、誰もが木の枝の折れそうなことに気付かずに必死に登っていたから。

問三 空欄 [X] に入る語として正しいものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 けら      2 けり      3 ける      4 けれ      5 けろ

問四 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを、次の1〜5の中から一つ選びなさい。

- 1 自分が乗った車の前に多くの民衆が立ちふさがってしまったので、法師は裏手から神社の中へ入ることにした。
- 2 競べ馬のため、賀茂神社は混雑していて押し分けて入り込む方法がなかったので、筆者は諦めて帰ることにした。
- 3 競べ馬見物で大変混雑していた賀茂神社で、法師に見物場所を譲った人は、神のご利益を得ることが出来た。
- 4 人は非情の木や石ではないので、例え高僧でなくても他人に優しくすることは人の道理にかなったことだ。
- 5 筆者が「死の到来も知らず競べ馬見物をしている方がよっぽど愚かだ。」と言うと、人々はその言葉に共感した。

問五 文学作品を成立順に並べたとき、本作品はどこに入るのが適当か、次の1〜5の中から一つ選びなさい。

竹取物語 ↓ 1 ↓ 枕草子 ↓ 2 ↓ 源氏物語 ↓ 3 ↓ 奥の細道 ↓ 4 ↓ 雨月物語 ↓ 5

平成二十八年年度 一般入試問題 国語 解答用紙

受験番号		
氏	名	

得点
----

一

問一

④	①
ハッキ	ソウジユク
⑤	②
ダツキヤク	ムエン
	③
	トクチヨウ

〔注〕※欄には記入しないこと。

問二

A
B
C
D

問三

X
Y
問四

問五

I
II
問六

※

問七

問七
----

問八

問八
----

問九

問九
----

二

問一

A
B

問二

問二
----

問三

問三
----

問四

問四
----

※

三

問一

問一
----

問二

問二
----

問三

問三
----

問四

問四
----

問五

問五
----

※

# 平成28年度 一般入試問題

## 数 学

(解答時間 50分)

(配 点 100点)

### [注 意 事 項]

1. 問題用紙は試験開始の合図があるまで開かないこと。
2. 解答用紙に受験番号(算用数字)と氏名を記入すること。
3. 問題番号は①～⑥です。最初に確認すること。
4. 解答はすべて、解答用紙の解答欄に記入すること。
5. 試験終了の合図とともに解答をやめて筆記用具を置き、監督者の指示に従うこと。
6. 問題用紙は各自持ち帰ること。

東京農業大学第一高等学校

**1**

次の式を簡単にしなさい。

$$(1) 2^8 \times \left\{ 0.75^2 - \frac{1}{4} \div \left( 1 - \frac{3}{20} \div \frac{1}{4} \right) \right\}^2$$

$$(2) \frac{3}{4} abc \div \left( -\frac{9}{4} ab^2 \div \frac{3}{8} abc \right)^2 \times \left( -\frac{2}{ac} \right)^3$$

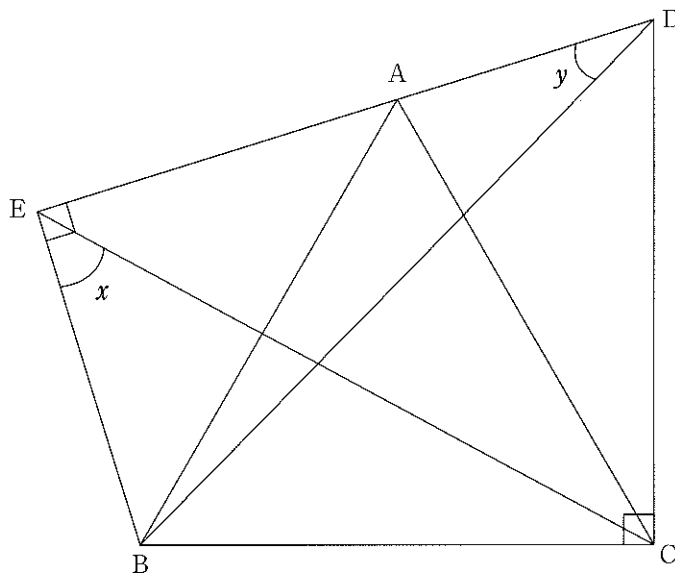
$$(3) \frac{(\sqrt{5} + \sqrt{3})^2 + 2(\sqrt{5} + \sqrt{3})(\sqrt{5} - \sqrt{3}) + (\sqrt{5} - \sqrt{3})^2}{\sqrt{5}}$$

$$(4) x + 3y - \frac{6x + 10y}{3} + \frac{6x + y}{9}$$

**2** 次の問いに答えなさい。

- (1) (i)  $(ax-by)^2 + (ay+bx)^2$  を因数分解しなさい。  
 (ii)  $(ax-by)^2 + (ay+bx)^2 = 65^2$  となる自然数  $a, b, x, y$  を求めなさい。ただし、 $a < b < x < y$  とする。

- (2) 下の図において、四角形 BCDE は  $\angle BCD = \angle DEB = 90^\circ$  であり、 $AB = BC = CA = CD$  である。このとき、 $\angle x, \angle y$  の大きさを求めなさい。



**3**

合計  $x$  個の球が入っている袋 A と、合計  $y$  個の球が入っている袋 B がある。A の袋も B の袋も、入っている球のうち 5 個は白球で、残りの球はすべて赤球である。このとき、次の問いに答えなさい。

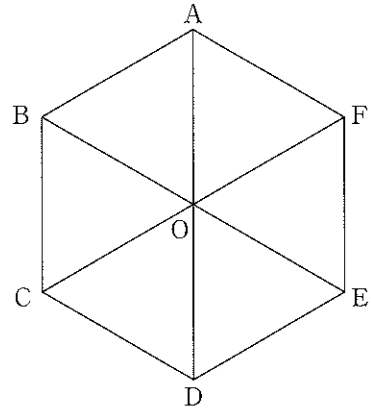
- (1)  $x=20$  とする。袋 A から球を 1 個取り出すとき、それが赤球である確率を求めなさい。
- (2) 袋 A から球を 1 個取り出すとき、赤球である確率は  $\frac{5}{6}$  である。このとき  $x$  の値を求めなさい。
- (3) A, B の袋からそれぞれ 1 個の球を取り出すとき、2 個とも赤球である確率は  $\frac{3}{7}$ 、2 個とも白球である確率は  $\frac{5}{42}$  である。このとき  $x, y$  の値を求めなさい。ただし、 $x \geq y$  とする。



**4**

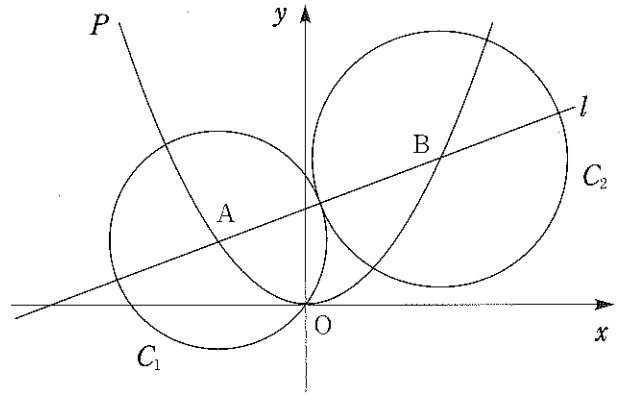
図のような正六角形 ABCDEF において、点 A, B, C, D, E, F, O から 3 点を選び、それらを結んで三角形をつくる。このとき、次の問いに答えなさい。

- (1) 三角形は全部で何個できるか求めなさい。
- (2) 正三角形は全部で何個できるか求めなさい。
- (3) 3 辺の長さがそれぞれ異なる三角形は全部で何個できるか求めなさい。



**5** 下の図のように、放物線  $P: y=2x^2$  と直線  $l: y=x+3$  が、2点 A, B で交わっている。点 A を中心とし、原点 O を通る円  $C_1$  と、点 B を中心とする円  $C_2$  が接している。このとき、次の問いに答えなさい。

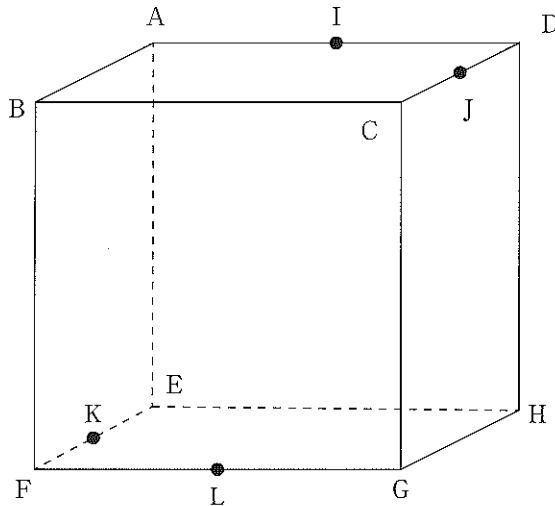
- (1) 点 A, B の座標をそれぞれ求めなさい。
- (2)  $C_2$  の半径を求めなさい。



**6**

図のような1辺の長さが $a$ の立方体 $ABCD-EFGH$ があり、辺 $AD$ 、 $CD$ 、 $EF$ 、 $FG$ のそれぞれの中点を $I$ 、 $J$ 、 $K$ 、 $L$ とする。このとき、次の間に答えなさい。

- (1) 点 $I$ 、 $J$ 、 $K$ 、 $L$ を通るような平面でこの立体を切ったときの切り口の面積を求めなさい。
- (2) (1)の平面でこの立体を切ったとき、点 $H$ を含む立体の体積を求めなさい。



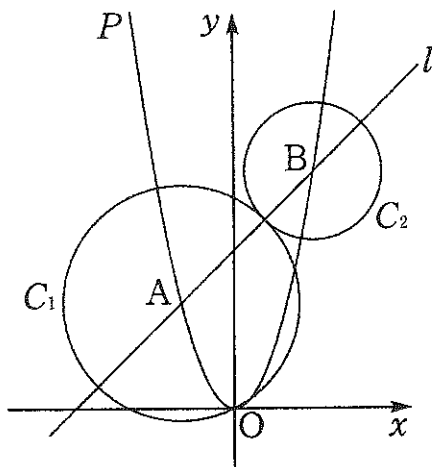
【訂正1】

2 (1) (ii)の問題文を次のように訂正します。

$(ax - by)^2 + (ay + bx)^2 = 65^2$ となる自然数  $a, b, x, y$  の組を1組求めなさい。ただし、 $a < b < x < y$  とする。

【訂正2】

5 の図を次のものに変更して下さい。



平成28年度 一般入試問題

数学 解答用紙

〈注〉※欄には記入しないこと。

1	(1)	(2)	(3)	(4)

2	(1)	
	(i)	(ii)
	$(a, b, x, y) = ( \quad , \quad , \quad , \quad )$	
(2)		※小計A
$x = \quad \circ , y = \quad \circ$		

3	(1)	(2)	(3)
		$x =$	$x = \quad , y =$

4	(1)	(2)	(3)
	個	個	個

5	(1)	(2)
	A( $\quad , \quad$ ), B( $\quad , \quad$ )	

6	(1)	(2)

※合計

受験番号				氏名	

※合計
-----

# 平成28年度 一般入試問題

## 英 語

(解答時間 50分)

(配 点 100点)

### [注 意 事 項]

1. 問題用紙は試験開始の合図があるまで開かないこと。
2. 解答用紙に受験番号(算用数字)と氏名を記入すること。
3. 問題番号は①～⑤です。最初に確認すること。
4. 解答はすべて、解答用紙の解答欄に記入すること。
5. 試験終了の合図とともに解答をやめて筆記用具を置き、監督者の指示に従うこと。
6. 問題用紙は各自持ち帰ること。

東京農業大学第一高等学校

1 次の問い(問1・問2)に答えなさい。

問1 下線部の発音が他と異なるものを、(ア)～(エ)から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1. (ア) hat            (イ) back            (ウ) animal            (エ) father

2. (ア) cool            (イ) pool            (ウ) wool            (エ) tool

3. (ア) breakfast    (イ) sweat            (ウ) pleaseure        (エ) peaceful

問2 単語のアクセント(強勢)の位置が第1音節にあるものを、(ア)～(ケ)から3つ選び、記号で答えなさい。

(ア) a-part-ment        (イ) care-ful-ly        (ウ) in-tro-duce

(エ) e-lec-tion            (オ) mu-si-cian            (カ) dif-fi-cult

(キ) mu-se-um            (ク) gov-ern-ment        (ケ) ex-am-ple

2 次の英文の( )に当てはまるものを(ア)～(エ)から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1. A : ( ) is it from here to the nearest bus stop?

B : It's about one and a half kilometers.

(ア) How far (イ) How long

(ウ) How soon (エ) How often

2. A : ( ) Lisa and I didn't understand Japanese, we enjoyed *kabuki*.

B : Did you? I'm glad to hear that.

(ア) Because (イ) If

(ウ) Though (エ) Either

3. A : When ( ) to France before?

B : About two years ago.

(ア) did you go (イ) were you going

(ウ) have you gone (エ) have you been

4. A : Let's visit Tokyo Tower together if it ( ) next Sunday.

B : Sounds good.

(ア) isn't rain (イ) doesn't rain

(ウ) won't rain (エ) mustn't rain



5. A : I called Jim last night but he didn't answer.

B : I guess he (        ) a bath when the phone rang.

(ア) takes

(イ) took

(ウ) is taking

(エ) was taking

6. A : I hear you have a lot of books in your room.

B : Yes. I have as (        ) my teacher does.

(ア) much books as

(イ) many as books

(ウ) many books as

(エ) much as books

7. A : The castle (        ) my family visited on that day looked ancient. Here is the picture.

B : Oh, I've been there, too. It was really great.

(ア) that

(イ) whose

(ウ) how

(エ) whom

8. A : Each of the members in this program (        ) a nickname.

B : What do they call you here?

A : I am called Hiro.

(ア) are

(イ) is

(ウ) have

(エ) has

9. A : We are looking forward ( ) from our old friends.

B : Yes. We haven't seen them for a long time.

(ア) hear (イ) to hear

(ウ) hearing (エ) to hearing

10. A : Jane is very kind to me, isn't she?

B : Yes. You should ( ) her in the future.

(ア) marry (イ) marry to

(ウ) marry with (エ) marry of

**3** 次の ( ) 内の語 (句) を並べかえて、日本文の意味に合うように英文を完成させなさい。ただし、文頭に来るべき語も小文字になっています。

1. そこに一人で行くのは不可能だとわかった。

( impossible / go there / it / to / found / I / alone ).

2. その国の食べ物はとても興味深い。

( the country / is / eaten / interesting / the food / in / very ).

3. 私は彼らが何を言っているのかわからない。

( know / talking / I / are / what / about / don't / they ).

4. このチームは優勝するほど強くはありません。

( to / strong / win / enough / this team / the first prize / not / is ).

4 次の各問い(A～E)に答えなさい。

(A) 次の各英文の下線部の意味としてふさわしいものを(ア)～(エ)から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1. Martin buys whole coffee beans from Colombia. Every morning he grinds the beans for his coffee. He says the coffee tastes better if you grind the beans yourself.

(ア) drink something slowly

(イ) break something into small pieces

(ウ) pick up something by oneself

(エ) sell something at a low price

2. The old house was a creepy place. It was very big and dark, and it made strange noises in the night. I closed my door and got into bed, but I couldn't go to sleep.

(ア) making you feel nervous and afraid

(イ) making you feel happy and glad

(ウ) making you feel sad and tired

(エ) making you feel active and cheerful

3. The wedding date is set for next summer. Everything is all planned. But do you really think that Lucy will go through with it? Does she really love this guy?

(ア) do something she has promised to do

(イ) visit someone with a gift

(ウ) pass through the party

(エ) change her job

4. At the party, we all tried to guess how many candies were in the bowl. My guess was really off the mark. I didn't win anything. Mary's guess was the closest, so she won a new bicycle.

(ア) was very close

(イ) was not right

(ウ) was quite empty

(エ) was hitting the object

(B) 次の英文のパラグラフ(段落)には、まとまりをよくするために取り除いた  
ほうがよい文が1つあります。取り除く文としてふさわしいものを下線部  
①～⑤の中から1つ選び、それぞれ番号で答えなさい。

1.           Around the world, there are different ideas about family names.  
In some countries, a married woman uses her husband's family name.  
Their children use that name, too. ①This is usually true in the United  
States, England, and Germany. ②In other countries, married women  
keep their own family name. ③Many women spend a happy life with  
their husbands. ④This is true in Italy and in many South American  
countries. ⑤In these countries the children may take the father's  
family name. They can also have two family names, one from the  
mother and one from the father.

2.           For many people, the best pet is a dog. First of all, a dog can be  
like a friend. After school or work, a dog is happy to see you. He runs  
to meet you and shows how happy he is. ①In fact, most dogs like to  
be with people and they like to learn things. ②You can teach them to  
sit, lie down, and get a ball. ③Dogs can also help families with children.  
④They usually don't play with many children. ⑤Children can learn  
a lot from a dog. They learn to take care of a pet. They often forget  
many things, but they can't forget to feed the dog.

(C) 次の英文の( )に当てはまる語(句)を(ア)～(オ)から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。\*印は注があることを示します。

Pencils and erasers just seem to go together. But that was not always the case. In the 1850s, people used pencils. They used erasers, too. ( 1 ), the two objects weren't joined to each other. When people made writing mistakes, they reached for the eraser. Of course, it was never there. Someone in the next room was using it, or the dog had buried it in the back yard with his bones. This happened to Hyman Lipman too many times. ( 2 ), he joined his eraser and pencil together. He liked the handy new writing \*device. The good people around Lipman liked it, too. ( 3 ), they liked it so much that they paid money for it. Lipman became a rich man, making a fortune that, today, would \*equal a million dollars.

(注) device…装置、仕掛け      equal…～に等しい、匹敵する

(ア) On the other hand

(イ) So

(ウ) In fact

(エ) However

(オ) Because

(D) 次の空所に、(ア)～(エ)の英文を文意が通るように並べかえて、記号で答えなさい。

The first air show was in 1909. That year, the city of New York was 300 years old. The city government wanted to do something special. Planes were new and exciting, so the city invited pilots to fly planes where everyone could see them.

- (ア) After that, Wilbur and his brother Orville gave air shows all around the United States.
- (イ) A few days later, he made another, longer flight up and down the Hudson River.
- (ウ) On September 29th, Wilbur Wright made a flight around the Statue of Liberty.
- (エ) This longer flight was the real show. Hundreds of thousands of people watched him from the city.

(E) 次の文章の[ ]に当てはまる英文を(ア)～(カ)から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

Glaciers are great sheets of ice that are made on land. They move very slowly. In many places in the far north and the far south they reach the sea. [ 1 ] Then huge pieces break off and float away. Those pieces are called icebergs.

*Iceberg* means “mountain of ice.” An iceberg can be many miles wide and as tall as fifty-story building. [ 2 ] The hidden part may spread out under the sea.

One of the worst ship accidents of all time was caused by an iceberg. In 1912, the Titanic began its first trip. It was the biggest passenger ship ever built. [ 3 ] It went down into the sea, and more than fifteen hundred lives were lost.

- (ア) An iceberg is very dangerous to climb by yourself.
- (イ) The pieces began to melt very slowly.
- (ウ) In the North Sea, it hit an iceberg.
- (エ) Only about one-ninth of the iceberg can be seen above the water.
- (オ) The ice moves into the water.
- (カ) It was a great trip around the world.



- 5 次の英文を読んで、後の設問（問1～問7）に答えなさい。\*印は注があることを示します。

When the first astronaut went into space in 1961, people imagined that we would soon be taking our vacations on the moon. More than fifty years later, we are still not able to buy a ticket for a weekend on the moon. However, the space age has still had a big influence on our lives. The main effect is not in space travel but rather in communication.

The biggest change in communication came with the satellite. A satellite is any object that \*orbits a planet. The moon is the earth's natural satellite. There are many \*manmade satellites orbiting the Earth as well. They have several jobs. Some help us learn about space. Others take pictures of the Earth and help us follow weather patterns. However, the most common use for satellites is in communication. We use satellites to communicate with each other through telephones, televisions, radios, and computers.

The first communication satellite sent a special message from \*President Eisenhower of the United States. In December of 1958, people all over the world heard him saying, "Peace on Earth, good will toward men." The message was recorded and then replayed to the world from the satellite. Although recording messages and sending them into space was an amazing thing to do at that time, it was not very useful for anyone. However, it was a good first step.

In 1960 a new kind of communication technology was developed by the US. Researchers sent a satellite into space called Echo, which was made of a \*material that could \*reflect signals. The idea was that people could make a radio signal reach more places by reflecting it off a satellite back to Earth. Unfortunately, the reflected signal was not very strong.

The next big \*advance in technology was a satellite called Telstar, which was \*launched in 1962. It improved on the Echo satellite by increasing the \*strength of the signal that was reflected back to Earth. Telstar \*relayed through space the first television pictures, telephone calls and fax images, and it also provided the first live \*transatlantic TV broadcast between Paris and the US.

Communication satellites have truly made life today much easier for people. Today people can easily and cheaply make a call to the other side of the world. Years ago, if you did not live in a city, you might not be able to get many television stations. But with satellites, anyone anywhere can get hundreds of television stations. Improvements are still being made. Companies have developed ways to provide Internet service through satellites. With that technology, it is now possible that people get onto the Internet from almost everywhere in the world, even from the inside of an airplane flying over the Pacific Ocean.

- (注) orbit…(軌道に沿って)～の周りを回る      manmade…人工の  
President Eisenhower…アイゼンハワー大統領(米国の第34代大統領)  
material…素材      reflect…反射する      advance…進歩  
launch…(ロケットなど)を打ち上げる      strength…強さ  
relay…中継する      transatlantic…大西洋をはさんだ両国間の

問1 次の(ア)～(エ)の出来事を起こった順に並べかえ、記号で答えなさい。

(ア) A satellite named Echo was sent into space.

(イ) A spaceship with a human on board went into space for the first time.

(ウ) The first communication satellite was launched.

(エ) Satellite Telstar relayed television pictures through space.

問2 次の文中の( )に入るのにふさわしくないものを(ア)～(エ)から1つ選び、記号で答えなさい。

Satellites are used ( ).

(ア) to send messages

(イ) to change weather patterns

(ウ) to study space and the Earth

(エ) to take pictures of the Earth

問3 次の質問に対する答えとしてふさわしいものを(ア)～(エ)から1つ選び、記号で答えなさい。

What did the first communication satellite do?

(ア) It played a recorded message.

(イ) It sent pictures of the moon to researchers on the Earth.

(ウ) It reflected a television signal.

(エ) It sent a message to the President of the United States.

問4 次の文中の( )に入るのにふさわしいものを(ア)～(エ)から1つ選び、記号で答えなさい。

The Telstar system was better than the Echo system because ( ).

- (ア) it was much cheaper to produce
- (イ) it sent a stronger signal back to the Earth
- (ウ) it sent information much faster than the Echo system
- (エ) it provided more television stations for people all over the world

問5 次の文中の( )に入るのにふさわしくないものを(ア)～(エ)から1つ選び、記号で答えなさい。

Communication satellites have made it possible for anyone to ( ).

- (ア) talk on the phone with someone on the other side of the world without paying a lot of money
- (イ) have an access to the Internet from almost all parts of the world
- (ウ) enjoy having a lot of television stations to choose
- (エ) communicate with astronauts in a spaceship easily

問6 次の英文(ア)～(カ)の中から、本文の内容と合っているものを2つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

(ア) President Eisenhower of the US was the first astronaut that went into space.

(イ) The main effect of research in the space age has been to make travel to the moon safe for almost anyone.

(ウ) A satellite is a manmade or natural object that goes around a planet.

(エ) The first communication satellite demonstrated a very useful technology of sending messages.

(オ) The Echo satellite was designed to use a new kind of technology but did not have a big success.

(カ) The Telstar satellite made a live TV broadcast between Japan and the US possible for the first time.

問7 この文章のテーマとして最もふさわしいものを(ア)～(エ)から1つ選び、記号で答えなさい。

(ア) The development in communication technology.

(イ) Space travel to the moon.

(ウ) Technological research in the space age.

(エ) Many kinds of satellites and their jobs.

平成28年度 一般入試

英語 解答用紙

〈注〉※欄には記入しないこと。

1 問1 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_

※

問2 \_\_\_\_\_

2 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_

5 \_\_\_\_\_ 6 \_\_\_\_\_ 7 \_\_\_\_\_ 8 \_\_\_\_\_

※

9 \_\_\_\_\_ 10 \_\_\_\_\_

3 1 \_\_\_\_\_

2 \_\_\_\_\_

3 \_\_\_\_\_

4 \_\_\_\_\_

※

4 A 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_

B 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_

C 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_

D \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_

E 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_

※

5 問1 \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_

問2 \_\_\_\_\_ 問3 \_\_\_\_\_ 問4 \_\_\_\_\_

※

問5 \_\_\_\_\_ 問6 \_\_\_\_\_ 問7 \_\_\_\_\_

受験番号				氏 名	